

わずかに含まれています。

f4 小麦にはグルテンの成分は含まれません。小麦アレルギーの診断にはf4 小麦もf79 グルテンも有用ですが、小麦を食べた後に運動するとアナフィラキシー症状を起こす「食物依存性運動誘発アナフィラキシー (FDEIA)」では、グルテンに含まれるグリアジンが関与していると考えられています。

Q : ω-5 グリアジンって何？

小麦の蛋白は水溶性蛋白と不溶性蛋白に分かれ、その不溶性蛋白 (グルテン) はグリアジンとグルテニンに分かれます。ω-5 グリアジンはこのグリアジンに含まれる蛋白の一つです。

f4 小麦と組み合わせ測定することで、即時型小麦アレルギー (小児期に発症) における臨床的特異度が向上すると報告されています。

また、ω-5 グリアジンは成人 (学童期以降) の小麦依存性運動誘発アナフィラキシー (Wheat-dependent exercise-induced anaphylaxis ; WDEIA) の主要なアレルゲンの一つであり、f4 小麦やf79 グルテンよりも臨床的感度および特異度がともに高く、診断効率が大きく改善すると報告されています。ただし、小児のWDEIA では、成人と比べて陽性率が低いと報告されていますので、WDEIA では患者さんの年齢にご注意ください。

Q : Ara h 2 って何？

Ara h 2 はピーナッツ由来のアレルゲンコンポーネントの一つです。

熱や消化に耐性を持つピーナッツの貯蔵タンパク (2S アルブミン) で、f13 ピーナッツよりも臨床的特異度が高く、f13 ピーナッツ特異的IgE 陽性例にAra h 2 特異的IgE を測定することで、診断精度を向上することができます。ピーナッツアレルギーは重篤症状を呈する 경우가少ないため、経口負荷試験は原則行わないこととなっている反面、確実な診断には負荷試験が必要ですが、f423 Ara h 2 の利用により危険性の高い負荷試験の実施を減少させることが可能となります。

Q : Gly m 4 って何？

Gly m 4 は大豆のアレルゲンコンポーネントの一つで、PR-10 タンパク (Bet v 1 関連蛋白) に属します。

Gly m 4 が原因の成人に多い大豆アレルギーではf14 大豆が陰性になることがありました。大豆粗抽出中のGly m 4 含有量が少ないためです。

PR-10 タンパクはシラカンバやハンノキ花粉の主要アレルゲンコンポーネントで、花粉以外にも果実、野菜などに広範囲に分布しており、共通抗原性によるPFAS (花粉-果物アレルギー症候群) が報告されています。そのため、Gly m 4 が含まれる大豆製品 (豆乳など) の摂取でアレルギー症状を誘発する患者さんの多くに、シラカンバやハンノキ花粉症の既往が確認されると報告されています。

豆乳などの大豆加工品によるアレルギーが疑われ、シラカンバやハンノキ花粉症がある方は、f14 大豆とGly m 4 を測定することで、成人に多い大豆アレルギー症例を、高い臨床的感度で検出することが可能となります。また同時にt2 ハンノキやt3 シラカンバも測定すれば、感作経路を推定することができ、より診断精度を高められると考えられます。

2 感染症トピックス：カンピロバクター食中毒について

【特徴】

家畜、家きん類の腸管内に生息し、食肉 (特に鶏肉)、臓器や飲料水を汚染します。

乾燥に極めて弱く、通常の加熱調理で死滅します。

【症状】

症状については、下痢・腹痛・発熱・悪心・嘔吐・悪寒などがあり、少ない菌量でも発症します。

潜伏期は1～7日と長い事が特徴です。

